

## 国士舘大学体育学部における教員養成に関するプロジェクト報告

### Report on Teacher training project at the Faculty of Physical Education, Kokushikan University

陳 洋 明, 田 口 康 之, 大 友 照 典, 松 井 慎 一  
五十嵐 浩 子, 三小田 美稲子, 新 木 伸 次

Yomei CHIN, Yasuyuki TAGUCHI, Toshinori OOTOMO, Shinichi MATSUI  
Hiroko IKARASHI, Mineko SANKODA and Shinji ARAKI

#### I. は じ め に

国士舘大学体育学部では、体育学科、武道学科、スポーツ医科学科において中学校教諭1種免許状(保健体育)、高等学校教諭1種免許状(保健体育)を、こどもスポーツ教育学科においては、保健体育の免許に加えて小学校教諭1種免許状が取得可能となっており、校種・教科に応じた教員養成を行っている。よって本学部では、小学校における各教科等の指導力ならびに中学校、高等学校における保健体育科に関わる指導力の育成が求められている。現場で即時に教育実践をできる指導者を育成するためにも教員養成課程において各教科等の実践的指導力の質をどのように担保するかが課題となる。本プロジェクトでは、以下のとおり、大きく2つの研究主題を設けて、それぞれのテーマごと研究を進めることとした。

研究テーマ1: 体育・保健体育科の実践的指導力育成に向けた試み(陳・田口・大友・松井が担当)

研究テーマ2: 体育系教員養成課程におけるICT活用指導力養成に向けた試み(五十嵐・三小田・新木が担当)

研究テーマ1を設定した理由としては、教師には、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、これらを基盤とした実践的指導力等が求められる<sup>1)</sup>が、国士舘大学体育学部として体育・保健体育科の実践的指導力をどのように育成するかについて検討する必要があると考えたためである。体育授業を通して、児童生徒に運動・スポーツ及び健康・安全に関する内容を適切に指導できる人材を輩出するため、国士舘大学体育学部が現在有する体育科教育学に関する英知を結集し、体育・保健体育の指導者養成に向けてどのようなアプローチが必要か検討していくこととした。

研究テーマ2を設定した理由としては、現在学校現場では、GIGAスクール構想に基づき、一人一台タブレット端末が配布され、ICTを活用した教育実践が盛んに行われていることから、体育系教員養成課程においてICT活用指導力をどのよ

うに育成するか検討する必要があると考えたためである。すでに、藤井ら<sup>2)</sup>の研究を通して、学生へのアンケート調査の結果に基づき、ICT活用指導力の育成に向けた指導の視点について検討し、教員養成課程での指導に関する知見を得ることができている。よって、研究テーマ2では、藤井ら<sup>2)</sup>の研究で浮き彫りとなった課題についてさらに追究することとした。

本プロジェクトの目的は、体育・保健体育科の実践的指導力ならびにICT活用指導力養成に着目し、国土館大学体育学部として、現場で即戦力となる教員を養成するため、それらの有効な手立てや取り組みを検討することである。なお、本稿では、主に研究テーマ1の「体育・保健体育科の実践的指導力育成に向けた試み」に関するプロジェクトの報告（現段階での進捗状況ならびに今後の展望）を中心に記すこととする。研究テーマ2の「体育系教員養成課程におけるICT活用指導力養成」に関する成果については、同研究所報の別稿に詳細な成果等を掲載しているので、そちらを参照されたい。

## II. 方 法

体育・保健体育科の実践的指導力育成に向けた研究を進めるに当たり、本稿では、主に以下の2点に迫ることとした。

- ①実践的指導力の育成に向けたアプローチに関する具体的な手法
- ②体育・保健体育を指導する上で必要となる資質・能力について

先述のとおり、教員養成段階では、小学校（体育科）、中学校・高等学校（保健体育科）における実践的指導力の育成に向けた多様なアプローチを実践していく必要がある。その一つの方法として、模擬授業の実施が挙げられる。模擬授業は、教育実習を除けば教員養成において、実践的指導力を身に付ける唯一の場であり、学生が授業づくりを通して具体的な教材研究の仕方を学び、その

成果を振り返り授業改善の視点を明確にする貴重な機会であると考えられる。よって、本学部において、体育・保健体育科に関わる模擬授業を取り上げている科目をシラバスに基づき明確にすることとした。

一方で、体育・保健体育の指導力を育成するためには、その指導者に求められる資質・能力を明確にし、それらを教員養成段階でどの程度身に付けていたかを検証する必要があると考えられる。よって、本稿では、体育・保健体育を指導する上で必要となる資質・能力について文献等を用いて検討することとした。

## III. 結果及び考察

### 1. 体育・保健体育科の模擬授業を取り上げている科目について

本学部において、体育・保健体育科に関わる模擬授業を主に取り上げている科目をシラバスに基づき選定したところ、体育学科開講科目「教職特別講座Ⅳ」（3年次・春期開講）、「教職特別講座Ⅴ」（3年次・秋期開講）及びこどもスポーツ教育学科開講科目「保健体育科指導法Ⅰ」（3年次・秋期開講）、「保健体育科指導法Ⅱ」（3年次・春期開講）を挙げることができた。

図1は、体育学科3年生対象の「教職特別講座Ⅴ」の15回の授業の流れについて示したものである。本科目は、体育学科の学校体育コースの必修科目として位置づけられ、主に中学校・高等学校の保健体育科に関する指導案作成及び模擬授業を実施する科目である。

図2は、体育学科3年生対象の「教職特別講座Ⅳ」ならびにこどもスポーツ教育学科3年生対象の「保健体育科指導法Ⅱ」の15回の授業の流れを示したものである（科目名は、異なるが同様のシラバスを用いて授業が展開されている）。これらの科目は、保健体育科（保健）に関する指導案作成や模擬授業を実施する科目である。

図3は、こどもスポーツ教育学科3年生及び体

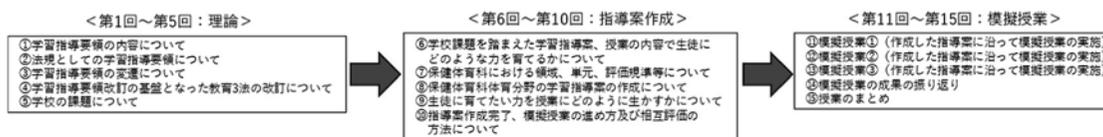


図1 「教職特別講座V」の授業の流れ

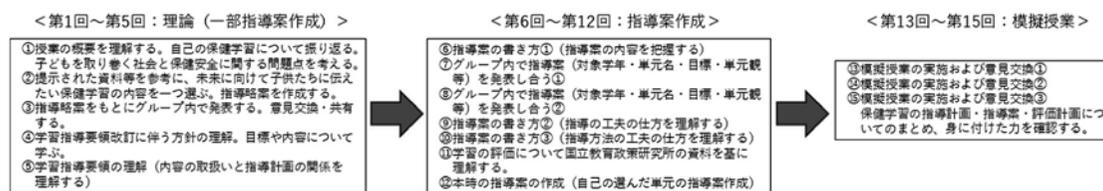


図2 「教職特別講座IV」ならびに「保健体育科指導法Ⅱ」の授業の流れ

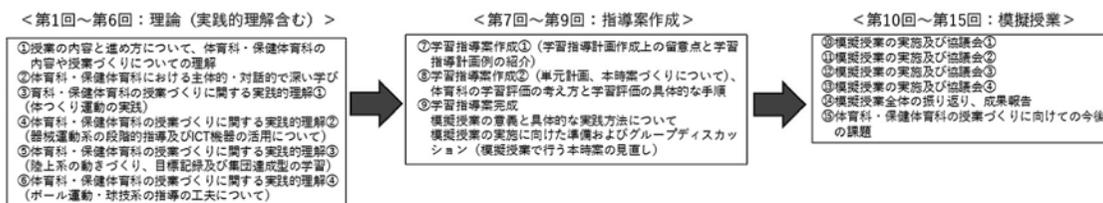


図3 「保健体育科指導法Ⅰ」の授業の流れ

育学科3年生（体育学科の小学校副免許取得希望者含む）を対象とした「保健体育科指導法Ⅰ」の15回の授業の流れを示したものである。本科目は、主に小学校体育（運動領域・特に高学年）・中学校体育分野をターゲットとした指導案作成及び模擬授業を実施する科目である。「保健体育科指導法Ⅰ」は、保健体育の教員免許取得に必要な科目であるが、本科目の履修者は、こどもスポーツ教育学科の履修生が多いこと、運動領域に特化した模擬授業を実施する科目は、こどもスポーツ教育学科では本科目を中心として実施していることから、現状、小学校体育を中心とした授業が展開されている。

科目ごとに授業担当者が異なり、授業の構成（理論、指導案作成及び模擬授業などに要する時間）は様々であるが、4つの科目に共通する点として、基本的な学修の進め方が「学習指導要領における目標や内容等についての理解」、「学習指導

案作成」、「模擬授業の実施、模擬授業の成果の振り返り」の過程を経ていることが明らかになった。よって、学生が体育・保健体育の指導力を身に付ける上で、どのような学びを得たかについて調査するためには、上記4つの科目による模擬授業の成果を検証することが望ましいと考えた。また、この調査を通して、複数の校種及び領域に応じた模擬授業の成果を検証できることが期待される。

## 2. 体育・保健体育を指導する上で必要となる資質・能力について

伊藤<sup>3)</sup>は、保健と体育はともに心身をテーマにした分野であることから、「保健体育教師は保健と体育の専門家である」と述べている。このことから、体育に関連する「運動・スポーツ・遊びに関する知識及び技能」ならびに保健に関連する「健康・安全に関する知識及び技能」は兼ね備えておく必要があると考えられる。また、現在の中

学校学習指導要領解説保健体育編では、「体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるよう留意すること」<sup>4)</sup>が挙げられていることから、実際の授業では、単なる知識や運動技術の指導のみに留まらない学習活動の工夫が大いに必要とされる。よって、児童生徒が体育や保健の学習を楽しめるように「独創的な授業づくり」をする力も求められると考えられる。

一方、渡邊<sup>5)</sup>は、有能な保健体育教師にみられる資質・能力として、体育、保健等に関わる幅広い知識を持つこと以外に「授業や部活動における事故などに対して適切に対応できる」、「他教科の教師などと連携協力して教育活動を推進する能力に優れている」ことなどを示している。よって、「危機管理能力」や「連携力」といった資質・能力も必要とされよう。加えて、渡邊<sup>5)</sup>は、教師には「教育者としての使命感」、「子どもに対する教育的愛情」などが求められるとしており、これらは、各自治体の教育委員会が採用時に受験生に求める教師像とも一致するものである。よって、教育に対する「使命感」、「愛情」及び「情熱」などは、校種・教科問わず、教育者に求められる普遍的な資質・能力であるといえよう。さらには、体育・保健体育という教科の特性を鑑みると、「表現力（表情、声量等）」、「コミュニケーション能力」、「リーダーシップ」、「社会性指導力（集団行動等）」などの資質・能力も必要となると考えられる。

以上の点を踏まえながら、体育科教育学を専門とする4名の大学教員で、体育・保健体育を指導する上で必要となる資質・能力について合議したところ、表1のように検討することができた。

#### IV ま と め

本研究では、本学部における体育・保健体育科の実践的指導力育成に向けた授業科目の整理なら

表1 本研究で検討した体育・保健体育を指導する上で必要となる資質・能力

- |                       |
|-----------------------|
| ①運動・スポーツ・遊びに関する知識及び技能 |
| ②健康・安全に関する知識及び技能      |
| ③独創的な授業づくり            |
| ④コミュニケーション能力          |
| ⑤表現力（表情、声量等）          |
| ⑥リーダーシップ              |
| ⑦教師自身の体力・精神力          |
| ⑧危機管理能力               |
| ⑨自己管理能力               |
| ⑩社会性指導力（集団行動等）        |
| ⑪情熱・愛情・使命感            |
| ⑫連携力                  |

びに体育・保健体育を指導する上で必要となる資質・能力の検討に留まったが、今後は、本稿で選定した各科目における模擬授業の実践を通して、学生がどのような学びや課題を得たのかなどについて、アンケート調査を通して把握していく（現在、調査中である）。引き続き、本テーマの課題に迫りつつ、国土館大学体育学部生に体育・保健体育科の実践的指導力を身に付けさせる手立てを構築していく次第である。

#### 引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会：今後の教員養成・免許制度の在り方について。2006。https://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm（2023年1月23日確認）
- 2) 藤井千恵子・三小田美穂子・五十嵐浩子・新木伸次：体育系教員養成課程におけるICT活用指導力育成のための授業の試み。国土館大学体育研究所報，40：105-114，2022。
- 3) 伊藤藤子：保健体育教師になろう！－不安に伝える現役教師からのアドバイス。80-81，大修館書店，東京，2014。
- 4) 文部科学省：中学校学習指導要領解説（平成29年告示）保健体育編。236-237，東山書房，2018。
- 5) 渡邊彰：保健体育教師に求められる資質・能力とは。杉山重利・佐藤豊・園山和夫編著，めぐそう！保健体育教師。33-46，朝日出版社，東京，2010。